株式会社NISSYO

東京都羽村市

はばたく中小企業・小規模事業者300社

生産性向上　需要獲得　担い手確保

ものづくり　サービス

生産性向上

ものづくり

積極的な人材活用・教育と現場の工夫 全員参加型経営により売上高を増加

綿の寝具などを生産する町工場として創業した同社は、1967年に電気関連の製造業へと転身。以来、トランス・リアクトルなどの変圧器を手掛けているが、現在では半導体製造装置における電源の製造も行っており、事業の大きな柱となっている。2017年、更なる事業拡大のため、青梅市から羽村市に本社・工場を移転。2018年11月には、「今後の中小企業は『工業』だけでは生き残れない。マルチ化を推進する」という経営方針のもと、「日昭工業」から「NISSYO」へ社名変更した。

- 所在地　東京都羽村市神明台4−5−17
- 電話／FAX　042−578−8222／042−578−8224
- URL　https://www.nissyo.tokyo/
- 代表者　代表取締役　久保 寛一
- 設立　1967年
- 資本金　2,000万円
- 従業員数　160人

多品種・少ロット生産における高付加価値の創出

事業形態は、少量多品種・ニッチな市場に特化。変圧器はインフラ（電車、データセンタ）と半導体製造装置向けをメインとしており、間接的に世界の多くの半導体製造メーカーで使用されている。製品を販売するだけでなく、ユーザへの設計応援、海外エンドユーザでの装置改造事業も新規に展開して高付加価値化を図り、全社員にiPadを配布し業務効率も高めている。2017年に工場移転、床面積4倍と従業員数2倍を実現。6年後には売上高100億円、従業員800名の計画を立てている。

高付加価値な少量多品種のものづくり

製造現場での工夫と従業員熟練度の「見える化」

現場の工具棚に、工具と同じ形に切り抜いたスポンジを貼り、新人でも一目で元の場所に戻すことが出来る工夫がある。工具が紛失した場合、工具とスポンジの形が合わないため、製品に工具が付いたまま出荷される等のミスも未然に防げる。また、作業の熟練度、作業内容によって帽子の色分けをしている。入社1年目又は異動して1年目の新人には赤、2−3年目は黄、3年目以降は青というように、作業員の「見える化」によって、新人や配置転嫁されたばかりの従業員をフォローできる。

帽子の色による作業員「見える化」の実例

外国人材の活用と積極的な新卒採用・社員教育

製造業の人手不足が騒がれている中、昨年、日本語学校の学生をアルバイトで60名採用し、その中から正社員1名を採用。2018年には8名の採用が決定している。また2009年から毎年、新卒（大卒）を2−3名採用しているが、ここ10年の定着率は90%を超えている（採用内定後は内定者の両親に社長自ら挨拶に赴き会社概要を説明）。社長自身、一番念頭に置いていることは従業員を大切にすることであり、社員1人当たりの教育費に年間40−50万円を捻出している。

社長自ら会社説明を行う積極的な新卒採用